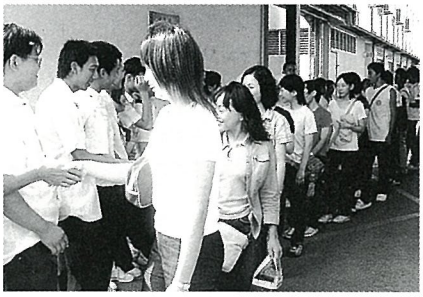
PAY FONG HIGH SCHOOL の訪問

参加体験レポート

海外研修・海洋体験セミナー
異文化と自然に触れ この夏貴重な体験

青少年海外視察研修
マレーシア・シンガポールを視察

国際化・情報化・高齢化と複雑多岐にわたる社会情勢の中で、町の未来を担う青少年に、豊かな人格と広い国際感覚を備えてもらうため、青少年海外視察研修が実施されました。

今年は13人が参加し、8月19日から24日までの6日間、アジアの異文化に触れました。

団長　平山友紀
（橋場）

I LOVE 亜細亜

ハイビスカスが咲き乱れる熱帯性気候のマレーシア。6時間の飛行を終え、降り立った異国の空気は高温・多湿でむせ返るほど。しかし、この東南アジア独特の香りはこれから始まる旅の上等なスパイス。うんざりするどころか、未体験の国で過ごす5日間に私は期待に胸を膨らます。

今回の旅のキーワードは「出会い」。この旅での様々な出会いの中で、印象深かった幾つかを書き記したいと思う。

JICA

国際協力事業団（JICA）は1974年8月1日に、我が国による技術協力を実施する事を目的に設立された。海外青年協力隊もこの組織の事業の一つである。

「海外協力隊なんて全然興味がなかったけど、参加する友達の話を聞いて、じゃあ自分も行ってみようかなあって。日本ではできない事を経験できて、自分も磨けるのではないかと思って。」と隊員の方が話す。

マレーシア最古のプロテスタント教会前で

住み慣れた日本を離れて異国の地で働く事は、それだけでも想像以上に大変なことだろう。彼女達の活動は海を渡り、私の知識は地元の小さなコミュニティで活かされる。それぞれの分野でそれぞれの役割がある事を改めて実感した。彼女達を同志だと思いながらも、やはり尊敬せずにはいられなかった。

LANGUAGE

マレーシアとシンガポールの国語は〝マレー語〟だが、日常生活では英語・中国語・タミル語等、10以上の言葉が話されている。両国で接した学生達は、母国語を含め2ヵ国語以上を流暢に話す。多民族国家の暮らしの中では幾つかの言語が必須とは言え、勉強熱心なのには本当に感心させられた。

FOOD

マレーシア・シンガポールには大きく分けて、マレー系、中国系・インド系の民族が住んでいる。食の分野にもそれぞれの文化がある。マレーシア料理・中国料理・ニョニャ料理（マレー料理と中国料理が融合されてできた料理）・インド料理・エスニック料理等…。旅行中の食事は、言葉も文化も宗教も違う私が、心から共感できる数少ない時間。食べ慣れない料理を口に運びながら、私はマレーシアに住む人々と同化する。

終わりに

シンガポール・マレーシア5日間の研修で、全てを知るには時間も勉強も足りなかった。しかし、知り得た事がその国の表面的な一部分だけでしかなかったとしても、実際に訪れなければ出会わなかった事であり、これからの私を育てる糧の一つになる事は確かだ。

アジアの雰囲気は素直に心地良い。また来年もアジアを訪れたいと思っている。

（研修レポートより抜粋）